

一カ



天理教アメリカ伝道庁

No.938

JANUARY

2026



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



—「ちば」について—



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、それぞれの持ち場立場により、陽気ぐらし実現を目指して、また伝道庁の上におつとめくださり、誠に有難うございました。

今月 26 日に、本部にて教祖 140 年祭が執り行われます。教祖にお喜びいただけるように、大勢の人々が帰参することを願っております。

本年も昨年同様、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、教祖 140 年祭に多くの人々に「おぢばがえり」していただきたいという思いを込めて、「ちば」の言葉を追って、「おさしづ」を調べてみましたので、そのことについて書いてゆきたいと思えます。

先ず、「おさしづ」索引で「ちば」の言葉が含まれる項目を調べました。全部で 121 項目ありました。そして、「おさしづ」内の 216 箇所で「ちば」

を含んだ言葉が使われていることが分かりました。他に「おぢば」の言葉が 6 箇所にあります。例えば、明治 25 年 1 月 12 日正午の「おさしづ」に、「日々おぢば／＼と言うは、世界論す心からおぢばと言うて出て来る。」

とあります。この「おさしづ」は、別席制度に関する「おさしづ」で、「世界論す」と仰せられているのは別席のお話だと思えます。それを聴きに「ちば」に人が集まって来るという意味になると思えます。

ですから、「ちば」の言葉は全部 222 箇所で使用されていることとなります。

「ちば」の項目が索引の中で 36 項目と一番多くなっていますが、ただ、項目としては扱われていませんが、「ちば一つ」の言葉を含む項目を数えますと全部で 46 項目あり、これが一番多い使い方になっています。

また、「ちば」とあっても意味は「地所」とか、現在の本部なり本部境内地を意味しているのではないと思われる使い方もあります。

例えば、明治 23 年 6 月 21 日（陰暦 5 月 5 日）午前 9 時 15 分の「おさしづ」に、

「広くちばが要る、要ると言うて前にも論したれど、やしきの取りようも無いと思うやろう。」

とあります。この「広くちばが要る」は、神殿中央の「ちば」の地点を意味しているのではなく、現在でも使われている広い意味の「ちば」ように、やしき、或いは本部境内地を意味していると思えます。

何年に「ちば」の言葉が何回使われているのかを、以下のように表にしました。

明治 20 年 1887 年	明治 21 年 1888 年	明治 22 年 1889 年	明治 23 年 1890 年
15	30+1	21	10
明治 24 年 1891 年	明治 25 年 1892 年	明治 26 年 1893 年	明治 27 年 1894 年
31	14+2	6	6

明治 28 年 1895 年	明治 29 年 1896 年	明治 30 年 1897 年	明治 31 年 1898 年
17	1	7	22+1
明治 32 年 1899 年	明治 33 年 1900 年	明治 34 年 1901 年	明治 35 年 1902 年
23	7	1	2+2
明治 36 年 1903 年	明治 37 年 1904 年	明治 38 年 1905 年	明治 39 年 1906 年
0	1	0	0
明治 40 年 1907 年			
2			

「+ 1」などとあるのは「おちば」の言葉の数です。さて、「ちば一つ」が一番多く使われている言葉であることが分かりましたが、それは当然のことだと思えます。つまり、「ちば」は天理教教会本部神殿の真座に「一点」しかないのですから、「一つ」ということで納得できます。「ちば」は世界中の他の場所にはないという意味です。

また、使い方としては「ちば一つの道」、「ちば一つの理」などがありますから、「ちば」から物事が始まっているということになると思います。

明治 21 年 7 月 2 日（陰暦 5 月 23 日）午前 6 時の「おさしづ」に、

「ちばに一つの理があればこそ、世界は治まる。ちばがありて、世界治まる。」

とあります。この「おさしづ」は、東京で教会本部が設置されてから教会本部を「ちば」に移転する願に対してのお言葉です。「ちば」が世界の中心であり、「ちば」があるからこそ世界の治まりがあると仰せられています。逆説的に言えば、「ちば」がなければ世界は治まらないということになります。

また、明治 24 年 11 月 23 日（陰暦 10 月 22 日）の「おさしづ」に、

「残らずちばから救ける。万事何から大切、第一のたすけ、ちばより救ける。」

とありますように、「ちば」に救けの元があるので。世界の人々が救けていただくのには「ちば」が必要であるとも言えるでしょう。

それを明確にお示し下されているのが明治 20 年 2 月 25 日（陰暦 2 月 3 日）午後 7 時の「おさしづ」です。

「第一をびやたすけ、さあ三日目三粒を三つ、三三九つを百層倍。これをかんろうだいへ供え、本づとめをして、元のちばなる事を伝え、をびや許しを出す。」

と、をびや許しの御供（ごく）をどのようにすれば出していただけるのかをお教えくださっています。「ちば」に御供（ごく）を供えて「をびやづとめ」を勤めることと指示されています。つまり、をびや許しは「ちば」から出しているということであり、

「ちばから救ける」と仰せくだされているとも言えます。

さて、天理教事典の「ちば」の項目には次のようにあります。

『「ちば」は、天理教の信仰者の対象であり中心である。「ちば」は親神が人間を創造された元の地点であり、天理王命の神名を授けられた所であり（中山正善『こぶきの研究』125-126 頁参照）、「よろづたすけ」の源泉である。このような「ちば」の意義は、「ちばの理」と呼ばれる。』

（天理教事典第三版、565 頁）

「ちば」は、天理教教典第三章「元の理」に、「三日三夜の間、九億九万九千九百九十九人の子数を、いざなみのみことの胎内に宿し込まれた。」とありますように、最初の人間が、いざなみのみことの胎内に宿し込まれた場所です。

おふでさきに、

そのとこでせかいちろうのにんけんわ

みなそのちばではじめかたで 17 号 7

そのちばハせかい一れつどこまでも

これハにほんのこきよなるそや 17 号 8

とありますように、「ちば」は、天理教の信者であろうがなかろうが、全世界の人間にとっての「ふるさと」なのです。つまり「人類のふるさと」なのです。

また、「ちば」に「天理王命の神名を授けられた所」とは、「ちば」に親神様がお鎮まりくださっているという意味です。つまり、「ちば」に親神様が居られるという意味です。

「よろづたすけの源泉」とは、「ちば」から全てが始まっているという意味です。つまり、世界を陽気ぐらしへと建て替える「かぐらづとめ」は、「ちば」に据えられている「かんろうだい」を囲んで勤められ、「をびやづとめ」などの人類救済のおつとめは、ここでしか勤められないことから、「よろづたすけ」の源（もと）は「ちば」であることが分かります。また、おさつづけの理は、教祖から頂戴していますが、天理教教典に、

「実に天理王命、教祖、ちばは、その理一つであって、陽気ぐらしへのたすけ一条の道は、この理をうけて、初めて成就される。」

（天理教教典、43 頁）

と記されてありますように、教祖は月日のやしろですから親神様より頂戴しているのであり、また「ちば」にて頂戴しているとも言えると思うのです。「ちば」は、私たちの信仰の目標（めどう）であると共に、たすけの源（もと）となる地点であり、そこで「めずらしたすけ」、「ふしぎなたすけ」をお見せいただき、また、それらを頂戴できる所なのです。

深谷 洋

立教188年12月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、深き親心のまに／＼、本年も恙なくお連れ通りいただき、本日は早くも当伝道庁の本年納めの御祭りを執り行う日柄となりました。顧みますれば本年は、教祖百四十年祭年祭活動の最終年として、心の成人を促進するために、各会の総会開催を始め、八月末には教理勉強会を行うなどいたしました。また、来年一月二十六日の教祖年祭時には、教祖に御安心いただけるように、お喜びいただけるようにと、それぞれの心定め of 完遂を目指して通らせていただき、年祭の当日まで、更なる心の成人に努めたいと存じます。その中にも今日の吉日に、親神様、教祖の広く深く、温かい親心に包まれながら、本年も頂戴しました数々の御守護に御礼申し上げ、只今より、ちばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、たすけ心と共に、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の十二月月次祭を執り行わせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびたよふぼく、信者一同が参集し、本年賜りました尽きせぬ親心に厚く御礼申し上げ、尚も変らぬ御守護にお縋りたいと、勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月二十六日より二十九日まで伝道庁にて、学生会冬季練成会を開催しますが、参加者たちが事故、怪我などなく過ごし、大きな学びを得て、心の成人ができますようお願い申し上げます。

また、二十八日より三十日まで伝道庁にて、おやさと練成会事前講習を開講いたしますが、滞りなく全日程を終え、全受講生が来夏のおやさと練成会を受講し、将来の道を担うよふぼくとして成人しますようお願い申し上げます。

私共は、納めの月次祭に当たり、本年賜りました御高恩に厚く御礼申し上げ、また、教祖百四十年祭に向けての残りの約一ヵ月間、更なる追い込みを掛けて、それぞれが定めた心定め of 完遂を目指して年祭活動を努め切り、陽気ぐらし世界実現の上に邁進させていただき覚悟でございます。何卒、親神様には、届かぬところは幾重にもお仕込みくださり、来る新年も限りなき御守護を賜り、お導き、お育てくださいますよう、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

12 月月次祭神殿講話

LA 心勇講 所長
中富 淳次郎

ただ今は、庁長先生ご夫妻を芯に、アメリカ伝道庁の本年納めの月次祭を陽気に勇んでつとめさせて頂き、ご同慶に存じます。ご指名を頂きましたので、教祖のひながたをたどる意味について、思案致しますところをお話させて頂きたいと存じます。しばらくの間、おつき合い頂きますようお願い申し上げます。

論達第四号を通して真柱様からおし込み頂きますように、この3年間、私達は教祖140年祭に向かう年祭活動を進めてきました。真柱様は、ご論達の中で「ひながた」という言葉に8度も触れられ、教祖のひながたについて強調されています。教祖のひながたを理解するだけではなく、教祖140年祭に向かう三年千日の間、教祖が御自ら行動で示されたことをたどらせて頂かねばなりません。

随分以前の話になりますが、日本で大学生だった頃、私は海外伝道要員のグループ、SATOMに所属していました。その当時は、SATOMに関わっていた大半は、卒業後は教会本部の海外部で御用をさせて頂くことになっていました。その一員として、卒業後のことを考え、お道の教理を勉強させて頂いた方が良いでしょうと感じました。教祖伝や教典を自身で勉強している時に、教祖のひながたをたどるとは、実際にはどういうことだろうかとよく考えました。教祖が貧のどん底に落ち入れられたことに非常に大きな印象を覚え、教祖がなされたように貧のどん底に落ち、ひながたをたどることはとてもできないと感じたも



のです。思い返せば、その時は信仰に対して、純粹に、真面目に向き合っていたのだと思います。

さて、教祖のひながたについて、天理教教典には以下のように記されています。

「教祖は、口や筆で親神の教えを説き明かされると共に、身を以てこれを示された。この道すがらこそ、万人のひながたである。」

天理教教典 45 頁

ここで明示されるように、教祖の50年に亘るひながたは、私達皆がたどるべく道をお示し下されたということです。教祖のひながたは、この3年間真剣にそのひながたをたどってきた人達だけではなく、真面目に通らせて頂こうと思いつつもできない人、どうすればよいか分からない人のためにもあるのです。教祖のひながたをたどらせて頂くとはどういうことなのかを考えるには、月日の社となられてからの50年の道すがらの全体像について、明確な理解を持つことが大切かと思えます。この点から、簡単ではありますが、その

道すがらについて振り返らせて頂きたいと思
います。

月日の社となられ以降、教祖は、親神様の「貧
に落ち切れ」との思召しに従うことを急がれ、
家財を貧しい人々に施され始めました。いち
れつ人間を救けるため、また、「谷底」で苦し
む人々を勇ますため、教祖ご自身が貧に落ち
きり、いちれつが救かる道をお付け下されま
した。教祖が貧に落ちきられる中、嘉永6年
(1853年)に夫善兵衛様がお出直しになられ、
同年、天理王命の御名を流すべく、教祖は末
娘のこかん様を大阪に向かわせました。その
ような大変な中にも、困っている人があれば、
やっとのことで手に入れたお米を惜しげなく
与えられるのが常でした。教祖は、どのよう
な困難な状況も勇んで通られ、貧のどん底を
いっしょに歩むお子達を元気づけられました。
食べるものがない時には、親神様の御守護に
より日々の生活ができることを教えられ、励
まされました。

嘉永7年(1854年)、をびや許しと共に、
不思議な救げが始まりました。ちばは人間宿
仕込みの場所であり、をびや許しを道開けに、
世界だすけの道が始まりました。教祖は、病
の根は心にあると教えられ、珍しい救げを目
の当たりに見せられました。多くの珍しい救
げを見せられると、身上や事情を救けて頂
きたいと、お屋敷を訪ねて来る人々が増えて
きました。それと共に、妬み、そねみから、暴
力を働く者も出てきました。こうした中にも、
教祖は更に勇んでお通り下さいました。

慶応2年(1866年)、教祖はつとめを教え
始められました。教祖は、つとめの人衆を揃え、
そして、心のほこりを払い、一手一つになり、
相応しい心の成人へと導くため、心を砕かれ
ました。その間、警察の監視や投獄などのご
苦労を意になされず、人々に心の成人を励ま
され、確固としてつとめの完成を急がれまし

た。そして、陰暦明治20年正月26日、子供
の成人を急き込まれ、定命を縮めて現身をか
くされました。

はなはだ大まかではありますが、教祖のひ
ながたについて振り返らせて頂きました。若
い頃の話ですが、なぜ教祖は、月日の社とな
られ、直ぐに数々の不思議な救げをおみせに
ならなかったのかとよく不思議に思いました。
月日の社として、そのようにできたはずで
す。しかし、そうはされませんでした。実際は、
中山家の家財を必要としている人々に施し、
貧のどん底に進まれたのです。教祖は、まず
おそばの方々に必要な心構えについて教えら
れ、世界たすけの基礎を築かれたと、私は今
思います。そして、教祖は、をびや許しを道
明けとして、身上、事情で悩む人々を進んで
救けられ、これからたすけの道に励まれる人
達を引き寄せられました。慶応2年(1866年)
には、教祖はつとめを教え始められ、子供の
成人を急き込まれる一方、その完成を急き込
まれました。従って、教祖のひながたにはは
つきりとした順番があるのです。教祖は、子供
の成人に応じてだんだんと教えを教えられ、
また、身を以て行動に移されたのだと信じま
す。そして、教祖は、親心から、いちれつを
救けるため、また、本当の救げ、すなわち陽
気暮らしへと導くため、教えを説かれ、模範
を示されたのだと信じるのです。

教祖のひながたをたどるとはどういうこと
かという問いに戻ります。鍵となるのは、私
達が日々教えに基づいた生活ができるように
との親心、ご配慮から、教祖は教えを身を以
て示されたという点にあると信じます。また、
教祖がその当時と場所で示されたことは、時
代や所が異なっても不変であるというのが重
要な点です。加えて、教祖のひながたは、万
人のものであるという点を心しておかなけれ
ばなりません。従って、教祖のひながたをた

どるとは、教祖がなされたことをそのまままねるということではないと思います。私達一人一人が、教祖が、ある状況、特に難しい状況を、もし私達のすぐ隣りにおられるとしたら、どのように見られ、行動されるかをよく考え、その理解に基づいて誠実に行動に移すことだと思っております。

立教166年(2003年)、春季大祭の神殿講話において、真柱様は次のようにおし込み下さっています。

「教祖は、百数十年前の日本の大和で、手本ひながたをお示くださいました。教祖が御自ら手本を示してくださった時代と、社会の状況は大きく変わり、さまざまな国の人々にをいが掛かるような今の時代では、うっかりすると、参考にならないとか、そのようにはできないと考えるってしまうこともあるのであります。

そこで、私たちはひながたの表面だけを見るのではなく、どんなときも、この場に教祖がおられたらどのように思召すだろうか、どうなされるだろうかと思案し、行動することが大切なのであります。ひながたの一つひとつは、その手掛かりとなるのであります。そして、教祖のお心に近づかせていただこうと努める中に、おのずと思召にかなう態度も身についてくると思います。時代は変わっても、教祖のたすけ一条のお心を体して通ることを心掛けるならば、それはひながたの道をたどることにつながると思うのであります。」

みちのとも 立教166年3月号 15頁

引用させて頂きましたように、真柱様は、「教祖のたすけ一条のお心を体して通ることを心掛けるならば」、教祖のひながたをたどらせて頂くことができるとお述べ下さっています。教祖は、私達のをやとして、子供かわいい一条から、私達をたすけることばかりを思われています。知恵の仕込みを頂いた教祖の子供



である私達は、教祖のお心に近づかせて頂くようつとめさせて頂かねばなりません。

教祖のひながたを思案させて頂く上で、私には忘れることのできない経験があります。適当な例かどうか分かりませんが、お話させて頂きたいと思います。

1998年のことですが、私は修養科英語クラスの組担任をつとめさせて頂く機会を得ました。クラスには、様々な国から、経歴の異なる10人の修養科生がいました。入信間もなく、おぢばがえりも初めてという修養科生が大半でした。二人の修養科生の間で、ちょっとしたいざござはあったものの、概ね順調に進んでいきました。3ヶ月目に入り、それぞれが修了に向けて修養に励んでくれていました。

各クラス代表による感話大会が行われる朝、事件が起きました。今申し上げたいざござのあった二人の修養科生の一人が、もう一人の修養科生に、また止めに入った修養科生に対しても、トイレで暴力を振るったのです。私は、当日の打ち合わせの最中でしたが、騒ぎを聞き、現場に駆けつけました。暴力を振るっ

た修養科生は、一晩中呑んでいたようで、完全に酔った状態でした。詰所に戻り、休むよう、その場は何とか説得をしました。酔いから冷めれば、自ら取った行動を謝罪し、修了まで頑張ってくれるだろうと思っていました。しかし、午後の部が始まったところに、その修養科生が戻ってきたのです。更に悪いことに、ナイフを手にし、彼をそれまでからかっていた日本の修養科生を追いかけ始めたのです。その場にいた誰もがパニックになりました。何とか彼を止め、すぐさま詰所に送り返しました。このことから、その修養科生は辞退を余儀なくされました。

私はその時にどのように感じたか、容易に想像できるかと思います。そのような行動に至った心の傷になぜ気付いてあげることができなかったのかと、自分自身を責めました。また、この節に込められた親神様の思召が分かりませんでした。長い一日が終わり、かんろだいの前にひざまずき、組担任としての至らなさを親神様にお詫び申し上げ、辞退した生徒に変わらぬお導きを頂くようお願い申し上げます。そして、教祖殿では、クラスの他の修養科生をどのように励ましたらよいか、教祖にお尋ね申し上げます。私には、彼らの気持ちを和らげ、修了してもらおう責任があったからです。その晩は眠ることができず、次の日に、皆にどのように親神様の深い思召を説明したらよいか考えました。たった一つ思い浮かんだのは、元治元年（1864年）に起こった、次のような大和神社の一件でした。

飯降伊藏先生が、妻を救けて頂いたお礼に、社の献納を思いつかれました。これについて、教祖は、社はいらないので、小さいものでも建てかけるようにと仰せられました。信者の真実が集まり、ふしんが始まりました。10月26日、棟上げが終わり、居合わせた方達は、簡素な食事でお祝いをしました。山中忠七先

生が棟上げのお祝いに、次の日に皆を自宅へ招待したいと教祖に申し上げ、教祖はそれを快く許されました。翌朝、出発する一同に、教祖は、行く道すがら神前を通る時には拝をするように仰せられました。一行は、目的地に進み始めました。途中、大和神社の前を通りかかると、教祖の言われた通り、鳴り物を入れて、拝をしました。その日は大切な祈禱をしており、それを邪魔したということで、一同は留め置かれました。これは大変な出来事でした。まだ日の浅い信者の中には、不安を感じて落伍する者も出てきました。ふと、こかん様が、行かなんだらよかったのにとつぶやくと、教祖の様子はたちまち改まり、

「不足言うのではない。後々の話の台である程に。」 稿本天理教教祖伝 59頁と、お言葉がありました。

この一件を通し、教祖は、人間にとっては悲劇的で、受け入れられないと思われるような出来事にも、親神様の深い思召があることを教えられ、そうしたあらゆる出来事を成人の機会と捉えるべきだと教えられていると思うのです。この大和神社の一件に触れ、自分のためだけでなく、三ヶ月目の途中で辞退しなければならなくなった生徒のためにも、最後まで頑張ってもらいたいとクラスの修養科生を励ました。

これは、私が問題に直面し、教祖のひながたを真剣に振り返らせて頂いた時の経験です。これ以外にも、教祖伝逸話篇にある教祖のお言葉に勇ませて頂いたことが多くあります。その一つですが、おたすけに数年通わせて頂いた方がおられました。その方は、脳内出血から奇跡的に意識を取り戻したのですが、その後、なかなか状況が回復せず、入院したままでした。ある日、病院からの帰り、次のような教祖のお言葉が浮かびました。

「(略) 人、皆、すっきり救かる事ばかり願

うが、真実救かる理が大事やで。(略)」

稿本天理教教祖伝逸話篇

「本当のたすかり」 246 頁

この教祖のお言葉が胸に響き、次の日からまたおさづけに通わせて頂くことができました。

教祖のひながたをたどらせて頂くためには、その根を掘らせて頂かねばなりません。具体的には、教祖伝や教祖伝逸話篇を勉強させて頂き、教祖のたすけ一条のお心をよく理解させて頂くことが大切です。これは、注意深く、意識的にさせて頂けば、思うほど難しいことではありません。一例を挙げれば、教祖は、常に人間の側に立ってお話下さっています。飯降伊藏先生が、産後の患いで寝たきりとなった妻の身上回復を教祖に願い出るため、初めてお屋敷に帰らせて頂いた時のことです。その時、教祖は、次のように仰せられました。

「救けてやる。救けてやるけれども、天理王命と言う神は、初めての事なれば、誠にする事むつかしかる。」

稿本天理教教祖伝 49 頁

つまり、教祖は、これまで聞いたことのない神名であり、親神様を信じるのは難しいだろうと仰せられました。教祖は月日の社であり、言うことを聞きなさい、全てを信じなさいと命令もできた訳です。しかし、教祖は、天理王命という神は信じるのが難しいだろうとやさしく仰いました。言い換えれば、教祖は、共感と理解を示されたのです。教祖が共感と理解を示された例は、教祖伝逸話篇のお話の中にもあります。例えば、慶応4年(1868年)、大雨で大きな被害を受けた山中忠七先生に対して、教祖は次のように仰せられました。

「(略) 信心していて何故、田も山も流れるやろ、と思うやろうが、たんのうせよ、たんのうせよ。後々は結構なことやで。」

稿本天理教教祖伝逸話篇

「結構や、結構や」 30 頁

同様に、教祖は、大雨で田も山も失った忠七先生に対して、一方的におし込みされることはなく、深い共感を示されました。教祖がお示しになったご態度は、私達がおたすけの時に見習うべきものです。まずは傾聴し、そして共感を示すことです。これが、人々を鼓舞し、自発的な行動を促すことになるのです。

これまで述べてきましたように、教祖のひながたは、私達の日常生活、おたすけ活動の指針となるものです。私達の経験や環境は一人一人違います。同じく、信仰の年限も様々です。よって、教祖のひながたの見方、感じ方も異なると思うのです。肝腎なのは、私達一人一人が示されたあらゆるひながたに教祖の思召を理解しようと努め、そして、それを実行に移すことです。

教祖 140 年祭まで、残すところ 1 ヶ月余りとなりました。残された日々、それぞれが教祖と心を繋がせて頂き、なお一層教えの実践に励ませて頂きたいと存じます。次のおさしづを引用し、私の話を終えさせていただきます。

「(略) 難しい事は言わん。難しい事せいとも、紋型無き事をせいと言わん。皆一つ／＼のひながたの道がある。ひながたの道を通れんというような事ではどうもならん。(略) ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略)」

おさしづ 明治 22 年 11 月 7 日
ご清聴頂き、ありがとうございました。





伝道庁連絡



12 月 月次祭

祭主 庁長
 扨者 大西 知 雪本 善
 賛者 岩橋 元博 雪本ステイブン
 指図方 長谷川邦昭
 神殿講話 中富淳次郎 (英)

おはこび

サンフランシスコ教会
 神床及上段模様替・神殿増築並屋根葺替願
 遷座祭日願、臨時祭典願
 おはこび予定：2026 年 1 月末
 遷座祭：2026 年 3 月 7 日
 鎮座祭：2027 年 8 月 28 日
 奉告祭：2027 年 8 月 29 日

布教所事情

メール布教所：住所変更
 新住所は伝道庁でご確認ください。

お出直し

東田美智子ノウスアメリカ教会 4 代会長 (3 代会長夫人) が、昨年 (2025 年) 12 月 22 日に、出直されました。享年 102 歳。ご生前中のご功績に厚く御礼申し上げます。

中村菊子ゴールデンステイト教会 5 代会長夫人が、昨年 (2025 年) 12 月 29 日午後 5 時 30 分に出直されました。享年 97 歳。みたまうつしは昨年 12 月 29 日に執り行われ、葬儀は本年 1 月 5 日にゴールデンステイト教会にて、近親者のみで執り行われました。ご生前中のご功績に厚く御礼申し上げます。

おやさと練成会事前講習

おやさと練成会事前講習が、12 月 28 (日) ~ 12 月 30 日 (火) の期間で開催され、6 名が修了しました。本年のおやさと練成会は 7 月 16 (木) ~ 22 日 (水) の期間で開催されます。申込書は既に配布しています。申込締切は 1 月 31 日 (土) です。

TSA 冬季練成会

TSA 冬季練成会は、12 月 26 (金) ~ 29 日 (月) の日程でアメリカ伝道庁にて開催され、29 名が参加しました。

Two Day Course

2026 年 3 月 21 ~ 22 日の期間で、アメリカ伝道庁とニューヨークセンターにて開催致します。開催には最低 4 名の参加が必要となります。申込み締め切りは、2026 年 3 月 1 日です。

修養科英語クラスについて

修養科英語クラスが来年 3 月末から 3 ヶ月間、おぢばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早めに伝道庁にお知らせください。

修養科スペイン語クラスについて

来年 9 月 1 日から 11 月 27 日まで、修養科スペイン語クラスがおぢばにて開講されることになりましたので、お知らせします。日本国査証の必要な志願者は、お早めに伝道庁にお知らせください。

教会長資格検定講習会について

例年 9 月 27 日から、5 名以上の受講者がいる場合に開講している教会長資格検定講習会英語クラスの日程が変更され、本年より 10 月 27 日から開講することになりました。

全教一斉ひのきしんデー

全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願い致します。各地区担当者の方への計画書用紙を配布していますので、伝道庁に提出して下さい。

第 86 回アメリカ修養会

第 86 回アメリカ修養会が、2026 年 6 月 21 日 (日) から 7 月 18 日 (土) まで開講予定です。開講約 1 ヶ月前 (5 月 17 日) までに、英語・日本語クラスは 2 名以上、スペイン語クラスは 5 名以上の申し込みがある場合に限り開催予定です。

教祖 140 年祭【特別展示】

昨秋より、教祖ゆかりの品を中心とした教祖 140 年祭「特別展示」を開催

日程：立教 189 年 1/24 ~ 27

時間：午前 10 時 ~ 午後 3 時まで (1/26 日は午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分まで)

場所：おやさとやかた南右第 2 棟

天理教ホームページをご確認下さい (日本語のみ)。

<https://www.tenrikyo.org/se140/>

立教 189 年 1 月末教人資格講習会

教会長資格検定講習会開催日変更

願書受付日：1 月 23 日、24 日 (従来通り)

開催期間：教人資格講習会

【変更前】1 月 27 日 ~ 2 月 10 日 →

【変更後】2 月 1 日 ~ 15 日

教会長資格検定講習会

【変更前】1 月 27 日 ~ 2 月 16 日 →

【変更後】2 月 1 日 ~ 21 日

教祖 140 年祭後の教会長御招宴

対象：直属教会長を除く全教会長 ※御招宴時点
 日時：2026 年 1 月 28 日 ~ 2 月 1 日 正午 ~ 13 時 30 分

※いずれかの日にちに1回出席

- ・海外教会長は、1/28の出席になっています。
- ・通訳の不必要な海外教会長で1/28以外に直属としての割り当てがあれば、その日でも出席可能です。その場合、各々より直属教会に変更を願ひ出て下さい。

教祖 140 年祭 JR 天理教団体割引について

天理教おぢばがえり団参券とは別に、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、8 人以上の団体が対象となる割引がございます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

JR 天理教おぢばがえり団参券の新区間について

教祖 140 年祭に向けた特別措置として、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、JR 団参券に「京都・天理」の新コースが追加されます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

天理大学国際学部日本語学科入学案内

天理大学国際学部日本語科（留学生対象）にて日本のごことを学びたい方は、以下の URL をご参照下さい。『入試情報サイト』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/>

『大学案内』『入試ガイド』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/request/>

『日本学科留学生<国外在住>選抜入試概要』

https://www.tenri-u.ac.jp/ent/system/jp_int_etc/

入学課：Tel +81-743-62-2164, Fax +81-743-63-7368

E-mail, nyushi@sta.tenri-u.ac.jp

尚、海外受験の場合には、来日の必要はなく、書類提出のみで受験できるとのことです。

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



天理教ホームページ



海外部ホームページ

年祭当日事情おはこび

1 月 26 日に事情のおはこびをお運び下さる予定です。

立教 189 年 1 月基礎講座（外国語）について

立教 189 年 1 月 24 日（午前）、25 日、27 日は、以下の予定で開催されます。申込締切は 1 週間前までとなっています。

- ・場 所：おやさとやかた南右第 2 棟
- ・受講対象：15 歳以上
- ・受講御供：500 円
- ・受講受付：海外人材育成委員 TEL：0743-63-2421
- ・開催日程及び言語：

24 日午前 英語・中国語

25 日午前 英語・韓国語

25 日午後 中国語・タイ語

27 日午前 英語・韓国語

27 日午後 中国語・ポルトガル語

布教部と海外部の HP (Website) に掲載予定です。問い合わせは海外人材育成委員会までお願いします。

通訳について

年祭当日の通訳言語は、英語、中国語（北京語、広東語）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、タイ語、ネパール語、モンゴル語の予定です。

外国語の神殿案内、をびや許し、お守り、お誓いの通訳は、3 日前までに翻訳課受付に申し込んで下さい。

立教 189 年 1 月 25 日 -26 日の教庁部署に関して

立教 189 年 1 月 25 日と 26 日の開いている教庁の部署に関しては、書記に問い合わせ下さい。

各会連絡

布教委員会

・教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、有難うございます。以下に 4 月までの当番をお知らせ致します。

2 月：福井陽一、武本エディ

3 月：浜田准一、小島ブライアン

4 月：雪本善、伊藤光春

・本年 1 月 25 日の回廊ひのきしんはありません。

・教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会

日時：2 月 14 日（土）

対象：教会長・布教所長

出張所長夫妻、主事

相談役夫妻、前教会長夫妻

教会長、布教所長後継者夫妻

申込締切：2 月 2 日（月）

申込は以下の Google フォーム

もしくは QR コードから。

<https://bit.ly/2026Februaryseminar>



深谷庁長より、「おふでさきにみる日々の心構え」について講義を頂きます。講義に続き、練り合いを計画しております。

広報委員会

- ・教祖 140 年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に掲載してきましたが、今後も引き続き「各地での活動報告」として掲載させていただきます。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。情報提供先：川上 kamishuyo@hotmail.com 林 takhayashi@gmail.com
- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用頂けるように作成し、また常にアップデートを努めております。(our Guide to Jiba: Oyasama 140th Anniversary 等。)是非、伝道庁ホームページをご覧頂き、また周りの方々に紹介頂きますようお願い致します。
<http://TenrikyoAmericaCanada.org>

婦人会

- ・天理教婦人会第 108 回総会
総ての会員がおぢばへ 人を誘っておぢばへ 一別席者とともに一
2026 年 4 月 19 日 (日)
式典：午前 9 時 30 分 於：本部中庭
記念行事：・講演会 4 月 18 日 (土) 午後 5 時
会場：第二食堂、東講堂、
東右第一棟 4 階講堂、
東左第五棟 4 階講堂
・支部の集い 式典終了後
- ・地区責任者の集い
2026 年 1 月 17 日 (土) Zoom

- ・アメリカ婦人会総会
2026 年 5 月 16 日 (土) 午前 10 時
記念行事：Family BBQ

少年会

- ・今年の少年会おつとめまなび総会は 6 月 20 日 (土) に伝道庁にて開催されます。次の Google フォームから参加者の情報を 1 月 18 日 (日) までにご提出ください。
<https://forms.gle/dQDgYAm1tjRC2Krh8>
また、総会に向けて、各教会、布教所、出張所、及び各家庭にて、おつとめの練習をしてください。
- ・子どもおぢばがえりのテーマソングが新しくなりました。タイトルは「みちのこ キラリ」鼓笛隊の皆さんは練習を始めてください。音源、動画は以下からご視聴いただけます。
<https://tenrikyo-shonenkai.org/kogsong/>
また、鼓笛隊では隊員を募集中です。是非ご参加ください。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@icloud.com】までお知らせ下さい。

青年会

- ・インターナショナルひのきしん隊
2026 年 7 月 18 ~ 24 日
案内を今月配布させていただきます。是非お声をかけていただき、興味のある方がおられましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。
seinenkainorthamerica@gmail.com

雅楽お泊り会

1/2 ~ 3



ハリウッド教会ようぼく山崎 Brian さん、大日本農会緑白綬有効章授賞

ハリウッド教会所属の山崎 Brian さんは、公益社団法人大日本農会（北米加州支会）が実施する令和7年度農事功績者表彰において、緑白綬有功章を受章されました。授与式は2025年12月11日（木）、ロサンゼルス日本国総領事公邸にて行われ、室田幸靖総領事より表彰状及び緑白綬有功章が授与されました。式典にはご家族、ご友人、関係者が出席し、温かな雰囲気の中で功績を称える場となりました。

山崎 Brian 氏は、1985年に当地で庭園業および造園業に携わり、2001年にはロサンゼルス市公園課に勤務、2022年に主任管理監督者に就任されました。さらに、1992年から2002年、そして2004年から2017年までの25年間、ハリウッド日系文化協会会長を務められています。また、2009年～2010年、そして2024年から現在に至るまで、南加庭園業連盟会長として日系コミュニティのために尽力されています。

授与式後、山崎氏はご家族や関係者への感謝を述べるとともに、庭園業に携わってきた自身の歩みを振り返りました。さらに、ハリウッド日系文化協会や南加庭園業連盟の活動を通じて地域社会に貢献し、日本文化とのつながりを深めることができたと言いました。今後も南加庭園業連盟を通じて、日系庭園業者の歴史を伝え、その地域社会への貢献が称えられ、忘れられないよう努めていく決意を示されました。

式典では、山崎氏の活動を紹介するビデオ上映の後、大日本農会北米支会会長の小山信吉氏、友人でありエドガー賞受賞作家の平原直美氏が祝辞を述べ、同氏の功績を称えました。さらに、リトル東京コミュニティ・ファンド会長のビル・ワタナベ氏からもお祝いの言葉が寄せられました。



おもちつき
12/28



TSA 冬期練成会
12/26 ~ 28

TSA 冬季練成会が、12月26日（金）から29日（月）まで伝道庁にて開催されました。参加者は高校生から大学生まで計29名。コロラド州やカナダ、さらにケンタッキー州のマレー州立大学に留学中の天理大学交換留学生も加わり、例年以上に多様で充実した練成会となりました。

期間中参加者は講義や、学生同士の信仰に基づく練り合いを通じて教義への理解を深めました。また、餅つきやひのきしん活動を通じて絆を強め、代替行事として訪れたシックスフラッグス・マジックマウンテンでは楽しい時間を共有しました。





おやさと練成会事前講習

12/28～30

おやさと練成会事前講習が、12月28日(日)～12月30日(火)の期間で開催され、6名が修了しました。本年のおやさと練成会は7月16日(木)～22日(水)の期間で開催されます。申込書は既に配布しています。申込締切は1月31日(土)です。



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

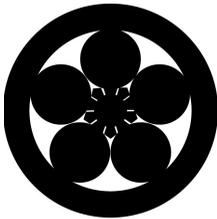
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.